

北見工業大学学報

第 284 号 (2017 年 11 月号)

目 次

入 学 式	平成 29 年度秋季大学院入学式を挙行……………	3
研 究 助 成	平成 29 年度共同研究の受入状況……………	4
	平成 29 年度奨学寄附金の受入状況……………	5
受 賞	地域未来デザイン工学科 富山和也助教らが舗装工学論文賞を受賞……………	6
諸 報	美山小学校「科学ものづくりクラブ」で学生が先生役に挑戦……………	8
	電気学会電力技術・電力系統技術合同研究会を開催……………	9
	ブック・プロジェクトによるビブリオバトルを開催……………	11
	アグリビジネス創出フェア 2017 に出展……………	12
	新学科スタート企画 金出武雄先生特別講演会を開催……………	13
	高大連携協力に関する協定に基づく事業を実施……………	14
	父母懇談会(秋季・札幌、東京)を開催……………	15
	職員表彰式を挙行……………	16
	Bio Japan 2017 北海道ブースに出展……………	17
	自動車技術会 2017 年秋季大会産学ポスターセッションに出展……………	18
	消防訓練を実施……………	19
	会計基準研修を実施……………	20
	第 2 回学生選書ツアーを実施……………	21
	社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催……………	22
	「第 2 回ハッカソン in 北見工大」を開催……………	23
	FD 講演会を開催……………	24

	メンタルヘルス研修を実施	25
	メッセナゴヤ 2017 北海道ブースに出展	26
	第 31 回北海道技術・ビジネス交流会(ビジネス EXPO)に出展	27
	北海道の大学・研究機関による JST 新技術説明会を開催・参加	28
	アグリビジネス創出フェア in Hokkaido に参加	29
	永年勤務者表彰式を挙	30
	研究ユニット活動状況報告会を開催	31
	大学見学において Pepper を活用	32
目 誌	10 月・11 月	33

= 入学式 =

平成 29 年度秋季大学院入学式を挙行

(総務課)

平成29年度秋季大学院入学式が、10月2日(月)午前10時から本学第1会議室で行われました。

高橋信夫学長から、留学生を含む8人の入学が許可された後、「大学が全力で皆さんのサポートをさせていただきますので、意欲

を持って勉学に励み、心身共に健やかな学生生活を送って下さい」と激励の言葉がありました。引き続き、総務課副課長から役員等との紹介が行われました。

入学者数は次のとおりです。

大学院工学研究科博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
機械工学専攻	1
電気電子工学専攻	1
情報システム工学専攻	2

大学院工学研究科博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
生産基盤工学専攻	1
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3



お祝いの言葉を述べる高橋学長



入学式終了後の集合写真

平成29年度共同研究の受入状況

平成29年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
冬季スポーツ科学 研究推進センター	センター長	鈴木 聡一郎	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	株式会社レクザム
地域未来デザイン工学科	准教授	吉澤 真吾	音波伝搬シミュレーションによる音響通信性能推定技術の研究	株式会社IHI
地球環境工学科	教授	大野 智也	セシウム酸化タングステン表面へのナノコーティング方法とその効果	株式会社リコーIMS事業本部
地球環境工学科	教授	亀田 貴雄	VLF帯電波受信器を用いた日本・アジア域で発生する雷放電のリアルタイム監視	国立大学法人北海道大学
地球環境工学科	准教授	中村 大	特殊フトンカゴに代わる寒冷地に適したのり面保護工の開発	北見土木技術協会
地域未来デザイン工学科	准教授	吉澤 真吾	水中音響通信装置のシミュレーションソフトウェアの研究他	三菱電機特機システム株式会社
地域未来デザイン工学科	准教授	梶井 文人	コンテンツツーリズムによる地域観光振興	株式会社ワイズスタッフ
地域未来デザイン工学科	教授	川村 彰	ワイヤレス路面性状測定装置の開発	株式会社PROFICT LAB
地域未来デザイン工学科	准教授	小西 正朗	「消臭液きえ〜る」の牛舎敷料中乳房炎原因微生物生息数への影響評価	株式会社環境ダイゼン/北オホーツク農業協同組合

平成29年度 累計83件

平成29年度奨学寄附金の受入状況

平成29年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額(円)
地域未来デザイン工学科	准教授	橋本 泰成	平成29年度 一般社団法人日本ガス協会 大学等研究助成金として 研究題目：「脳波を用いたリアルタイム室内環境最適化システムの開発」	一般社団法人日本ガス協会	1,000,000
地域未来デザイン工学科	助教	崔 希燮	工学研究のため	北海道土木技術会 コンクリート研究委員会	150,000
地球環境工学科	准教授	川口 貴之	斜面安定工と補強土壁の凍土・融解耐久性に関する実験研究のため	東京インキ株式会社 加工品営業本部	1,250,000
地域未来デザイン工学科 地域未来デザイン工学科	准教授 助 教	井上 真澄 齊藤 剛彦	はく落防止の押抜き試験に関する研究助成のため	萩原工業株式会社 合成樹脂事業部	900,000
地域未来デザイン工学科	教授	高橋 清	工学研究のため	株式会社ドーコン	300,000
地球環境工学科	准教授	川口 貴之	法面凍上に関する研究	株式会社構研エンジニアリング	500,000
地球環境工学科	教授	齋藤 徹	第38回（2017年度）環境研究助成（一般研究助成）として 研究テーマ：「鉄鋼製造排水中界面活性剤・油分の同時除去」	公益財団法人鉄鋼環境基金	1,500,000
地域未来デザイン工学科	教授	渡邊 康玄	横断構造物による河床変動の制御に関する研究の支援	日本工営株式会社 コンサルタント国内事業本部	1,100,000
地域未来デザイン工学科	特任助教	本間 雄二郎	平成29年度研究奨励金給付事業として 研究課題名：「イネのショ糖蓄積種子変異体における原因遺伝子の特定と表現型発現に関する研究」	公益財団法人ホクト生物科学振興財団	500,000
工学部	特任研究員	田中 康弘	エディテージ研究費・英文校正 Grant における英文校正のため	田中 康弘	50,000
地域未来デザイン工学科	教授	三上 修一	鉛プラグ入り積層ゴム支承の変形特性に関する解析的研究	株式会社川金コアテック	1,000,000

平成29年度 累計62件

= 受賞 =

地域未来デザイン工学科 富山和也助教らが舗装工学論文賞を受賞

(地域未来デザイン工学科)

12月8日(金)、地域未来デザイン工学科の富山和也助教が筆頭となり、同 川村彰教授らと発表した論文が、舗装工学論文賞を受賞しました。

公益社団法人土木学会舗装工学委員会では、1996年以降、年1回舗装工学講演会を開催し、同時に土木学会論文集 E1 (舗装工学)-舗装工学論文集-を発売しています。舗装工学論文賞は、投稿された論文に対し、査読および論文賞選考委員による審査を経て、最も優れた論文に授与されるものです。第22回目となる今年度は、富山助教らの論文「路面のラフネスに対する車両乗員の生理心理反応と許容限界評価」が受賞となりました。本研究は、University of Padova (イタリア) の Dr. Riccardo Rossi, Dr. Massimiliano Gastaldi ならびに Dr. Claudio Mulatti らとの国際共同研究の一環として、独立行政法人日本学術振興会からの助成(科学研究費助成事業 若手研究(B) および基盤研究(B))を受け実施しているものです。

富山助教らは、本研究において、車両乗員の安全性および快適性の観点から路面のラフネス(平坦性)と人の精神的ストレスおよび認知処理に関わる生理心理応答との関係について、ドライビングシミュレータを用いた走行試験により検討しています。その結果、平坦性の増加に伴い、心理応答である反応時

間が増加する場合、生理的な心拍変動指標により定量化された短期および長期的な精神的ストレスが共に増加することを明らかにしました。この結果から、平坦性の増加が、快適性の低下のみならず、疲労の増加に伴う反応時間の増加により、安全性の低下につながることを示しました。

また、従来の平坦性に関する研究は、国際ラフネス指数(IRI)による物理指標と、主観的なアンケートに基づく心理指標もしくは心拍や脳波などの生理指標との関係から検討されていましたが、富山助教らの研究では、物理・心理・生理情報を統合したアプローチにより、既存の評価手法に対しても合理的な解釈を与える成果を得ております。

北海道では全国に比べて自動車による交通分担率が高く、社会基盤および人口構造の高齢化が急速に進行する今日、本研究成果は、安全・安心で快適な道路交通環境整備に寄与するものと期待できます。

受賞論文:

富山和也, 川村彰, Riccardo Rossi, Massimiliano Gastaldi, Claudio Mulatti: 路面のラフネスに対する車両乗員の生理心理反応と許容限界評価, 土木学会論文集 E1 (舗装工学), Vol. 73, No. 3 (舗装工学論文集第22巻), pp. I_89-I_96, 2017年12月.



表彰式で挨拶する富山助教



舗装工学論文賞賞状

美山小学校「科学ものづくりクラブ」で学生が先生役に挑戦

(社会連携推進機構)

9月21日(木)、11月9日(木)の両日、昨年に引き続き、北見市立美山小学校「科学ものづくりクラブ」において、本学の学生が先生役となり、ものづくり体験の教室を開催しました。この取り組みは、オホーツク地域エネルギー環境教育研究会(OE³:オー・イー・キュービック)の活動をきっかけに始まったものです。

学生たちは、身近な材料を用いて簡単にできる工作を通じて、小学生に科学の楽しさを知ってもらおうと、事前に準備等を行い工夫していました。

第1回目は、ペットボトルに風船を取り付けて動かすホバークラフトを製作しました。子どもたちは、出来上がったホバークラフトを校舎内の廊下で競技させる等、楽しんでいました。第2回目は、同じ材料を

用いた空気砲を製作しました。両日とも30人ほどの小学生が参加し、工夫次第で、第1回目とは異なった物が出来上がり大変喜んでいました。さらに、雑誌を用いた摩擦の体験についても学び、参加した小学生や担当の先生方からは、「科学やものづくりへの興味が深まる良い機会になった」と、好評をいただきました。

また、参加した学生からは「普段とは反対の教える立場で難しかったが、子どもたちに喜んでもらえて貴重な体験になった」との感想がありました。

このような活動は、本学の地域貢献だけではなく、学生にとっても貴重な勉強の機会ともなり、今後も活動を継続していきたいと考えています。



「空気砲」製作の様子



雑誌を用いた摩擦を体験

電気学会電力技術・電力系統技術合同研究会を開催

(地球環境工学科)

9月21日(木)、22日(金)に本学を会場として、電気学会電力技術・電力系統技術合同研究会が開催され、全国から約130人が参加しました。今回のテーマは「電力技術・電力系統技術一般」と「分散電源」でしたが、広く電力技術・電力系統技術に関する119編の論文が発表されました。

電気学会の研究会の位置付けは、電気学会論文誌に投稿する一歩手前の段階の研究成果を発表して討論を行うものであり、論文のページ数は6ページと学会論文誌に準じた分量となっており、1件当たりの発表時間も十分な議論ができるように質疑応答含めて25分と長めに取られています。大学院生等にとっては研究成果を発表するとともにプレゼンテーション能力を磨くための修行の場として定着しており、一方企業等の技術者にとっては速報として研究成果を広く発表できる場ともなっています。

電気学会においては各技術分野に応じて多数の研究会が開催されていますが、その中でも電力技術研究会は歴史が古く、今回が38年目の大会でした。昭和63年にも本学で開催されており、今回は本学での2度目の開催となりました。

本研究会では、アトリウム周辺の講義室

を利用して、5つの会場・セッションに分かれて論文発表が行われました。各セッションの内容は、電力系統の需給運用・制御、配電系統制御、安定度、解析手法といった伝統的なものから、マイクログリッド、再生可能エネルギー、蓄電池制御、電力市場といった最新のものまで多岐にわたりました。

特に、昨今の太陽光・風力等の再生可能エネルギーの増大や電力市場の自由化等の動きを背景とした論文が目立ち、各会場で活発な討論が行われました。本学からも、大学院生が風力発電に関連した論文5編を発表しました。

大会初日の夜には生協を会場として懇親会が開催され、ホタテ、鹿肉、ジャガイモ、玉ねぎなど地元の食材が振る舞われ、特に塩辛をのせて食べるジャガイモが人気で、ジャガバターよりも美味しいと好評でした。

最後に、本研究会開催にあたり本学からは共催として、北見市からも協賛として種々ご支援を頂きました。また、本学教職員・学生諸氏からも会場の設営と後片付け・研究会の進行等に関して種々ご協力を頂きました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。



発表会場の様子

ブック・プロジェクトによるビブリオバトルを開催

(情報図書課)

10月1日(日)、北見市立中央図書館においてBP(ブック・プロジェクト)によるビブリオバトル(書評合戦)を開催しました。

本ビブリオバトルは、北見市立中央図書館のイベント「第21回図書館まつり」におけるプログラムの一つとして、本学図書館との連携協力のもと実施したものです。当日イベントに訪れたたくさんの市民の方々がビブリオバトル会場へも足を運び、BPメンバー4人の発表を観戦してくれました。

また、10月24日(火)には、本学図書館コミュニケーションホールを会場として「全国大学ビブリオバトル2017」の予選会を開催しました。発表者の5人がお勧めする

本についてそれぞれ紹介し、それに対し観戦者が興味をもって積極的に質問を投げかけていました。

投票の結果、昨年の予選会に引き続きBPメンバーの高橋毬百さん(バイオ環境化学科3年)がチャンプ本を獲得し、旭川で開催される北海道地区決戦に進出しました。

高橋さんは、その後行われた北海道地区決戦においてもチャンプ本を獲得し、12月17日(日)に東京のよみうり大手町ホールで開催される「全国大学ビブリオバトル2017～首都決戦～」に北海道代表として出場することが決定しました。高橋さんの全国大会での活躍が大いに期待されます。



ビブリオバトル開催の様子

アグリビジネス創出フェア 2017 に出展

(社会連携推進センター)

10月4日(水)～6日(金)の3日間、東京ビッグサイトでアグリビジネス創出フェア 2017 が開催されました。

本イベントは全国の公的機関等が有する農林水産・食品分野などの最新の研究成果を紹介し、他機関や事業者との連携を促す場として農林水産省が主催しています。

本学は平成19年度より継続して出展しており、今年度は全国から145機関が出展し、来場者は約3万8千人にのびりました。

今年度は、地球環境工学科 小針良仁助教の「北海道オホーツク地域での工学による植物資源の生産性向上や高品質化などの一次産業支援」と、本学が平成18年度から実施している「工農教育事業」についてのパネル展示を行いました。

小針助教は今年度設置された研究プロジェクト「オホーツク型先進農業工農連携研

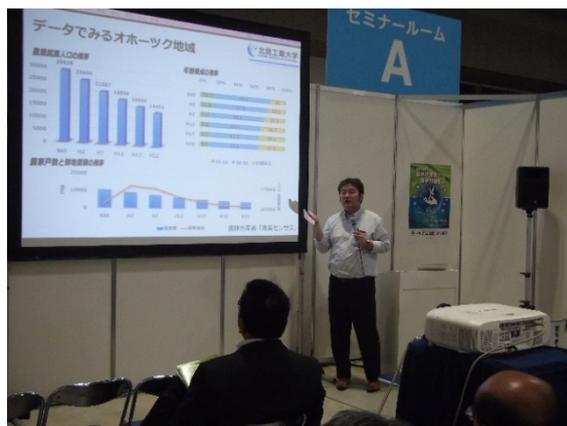
究ユニット」のメンバーでもあり、自身の研究の他、本ユニットの紹介も行いました。他の出展大学は農学の視点からの展示内容が多い中、本学は工学という、珍しさや工学を活かした第一次産業支援について紹介したことから、他大学・研究機関をはじめ、自治体や食品、機械など幅広い分野の関係者からの関心を集めました。翌日には小針助教によるプレゼンテーションも行われ、来場者は熱心に耳を傾けていました。

本イベントへの参加は、工学による農林水産業の支援・発展への貢献に向けた活動を知っていただく貴重な場となっています。

本学は地域に生きる大学として、地域の核である第一次産業を支える研究について、今後も広く紹介して行きたいと考えています。



本学ブースの様子



プレゼンテーションを行う小針助教

新学科スタート企画 金出武雄先生特別講演会を開催

(金出武雄先生特別講演会実行委員会)

10月6日(金)、新学科スタート企画として、カーネギーメロン大学ワイタカー冠全学教授の金出武雄先生を講師にお迎えし、「楽しく役にたつコンピュータビジョンとロボットの研究」と題した特別講演会を本学講堂において開催しました。

講演会には、本学の学生や教職員、地域の方々合わせて570人の参加がありました。

講演では、金出先生のこれまでの研究成果について、専門外の参加者にもわかり易くお話しいたいただき、ユーモアあふれるお話しには笑い声もあがり、質疑応答を含めて2時間にわたる講演は大盛況となりました。

「楽しく役に立つ研究のためにはシナリ

オを作ること」「スピードが勝負」「数はしばしばモノを言う」など、研究や学業、仕事のヒントになる言葉も満載で、講演の最後には「問題はあなたが解いてくれるのを待っている」と、本学の学生や研究者を励ます言葉で締めくくっていただきました。

また、午前中には、本学の若手研究者によるプレゼンテーション、意見交換や社会連携推進センターの視察、大学役員との懇談も行われました。

講演に参加いただいた皆さんや、開催にご協力いただいた皆さんには、この場をお借りしてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。



講演される金出先生



会場の様子

高大連携協力に関する協定に基づく事業を実施

(学 務 課)

本学は、北海道遠軽高等学校との高大連携協力に関する協定を締結しています。本協定は、本学と北海道遠軽高等学校が連携することにより、高等学校教育と大学教育との円滑な接続を図り、人材育成に資することを目的に平成25年度に締結したものです。この協定に基づき、下記の事業を実施しました。

★遠軽高校ピアサポート事業

10月7日(土)、本学学生13人が遠軽高校を訪ね、生徒に対し数学を教える事業「遠軽高校ピアサポート」を実施しました。

本事業は、本学学生が指導方法を体得することを目的として実施しているものです。1～2人の高校生に対し、1人のピアサポート大学生がつきっきりで高校生に学習指導を行いました。

参加した高校生22人からは、「優しく丁寧に教えてもらえてうれしかった」「大学の話が聞けて良かった」などの感想が聞かれました。また、本学学生からは、「人に教えるという貴重な体験ができて良かった」などの感想が寄せられ、それぞれ充実した1日となった様子でした。

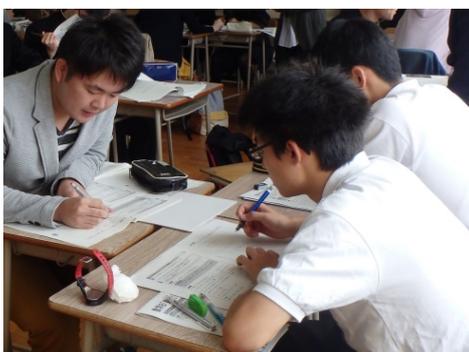
★異校種連携事業

11月15日(水)、遠軽高校で開催された「異校種連携事業」に本学は3つの講座を設け参加しました。

本事業は、遠軽高校が小・中・高校及び道内大学と連携することにより、体系的なキャリア教育の推進を目的として実施しているものです。遠軽町内の小学6年生及び中学2年生、約170人が本学開催の講座『『温度』って何だろう？ー温度と熱の関係』、「液化実験ボトルを作ってみよう」、「極低温を体験しよう！！」の3つのテーマに分かれ、それぞれ実験を行いました。

参加した小・中学生は、普段触れることのない大学の研究に触れ、科学に対する興味を持つとともに、学習意欲への大きな刺激を受けたようでした。

本学では、今後もこれらの事業を継続するとともに、遠軽高校との高大連携協力の更なる連携強化を図っていこうと考えています。



本学学生から数学を教わる高校生



実験の説明を聞く中学生

父母懇談会（秋季・札幌、東京）を開催

（学 務 課）

例年開催している「父母懇談会（秋季・札幌、東京）」を、札幌は10月9日（月・祝）に北海道大学高等教育推進機構で、東京は10月28日（土）に学術総合センターを会場としてそれぞれ実施しました。

札幌会場には84組の保護者が参加し、富田剛夫学生後援会会長から後援会の活動状況等の報告、田村淳二副学長から本学の教育及び就職状況等の説明等、様々な情報が保護者に提供されました。

東京会場には94組の保護者が参加し、全体説明会において田村副学長から札幌会場

と同様の説明を行いました。

札幌、東京いずれの会場とも個別面談では修学状況、就職等に関する保護者から質問に対し、各教員が丁寧に対応していました。

参加した保護者からは「先生から本人の話聞いて良かった」「個別面談では詳しく教えて頂き理解することができました」といった感想のほか、「東海地方からの入学者が多いようなので名古屋でも父母懇談会を実施してほしい」等の要望も寄せられました。



全体説明会の様子（札幌会場）



個別面談の様子（札幌会場）



全体説明会の様子（東京会場）



個別面談の様子（東京会場）

職員表彰式を挙

(総務課)

10月11日(水)、平成29年度国立大学
法人北見工業大学職員表彰式が第2会議室
において挙行されました。

高橋信夫学長から被表彰者に対し、表彰

状の授与並びに記念品の贈呈が行われ、輝
かしい功績の数々に対する敬意とお祝いの
言葉が贈られました。

被表彰者は、次のとおりです。

北見工業大学職員表彰被表彰者 (50音順)

氏名	成果等
齊藤剛彦 崔希燮 山崎智之	修学方法の改良に伴う、教育及び業務改善効果
佐藤勝	電気学会論文奨励賞の受賞
武山眞弓	共同研究成果に基づく、電気学会論文奨励賞の受賞
柳等	カーリング部の指導、育成等の功績



職員表彰式被表彰者

Bio Japan 2017 北海道ブースに出展

(社会連携推進センター)

10月11日(水)～13日(金)の3日間、パシフィコ横浜を会場に Bio Japan 2017 が開催されました。本イベントはバイオ・メディカル産業におけるアジア最大級のパートナーリングイベントで、国内外から製薬会社や医療機関、研究機関が多数参加しました。ブース展示の他、セミナーやプレゼンテーションが行われ、研究機関や企業などの最新の研究成果が紹介されました。同時開催の再生医療 Japan2017 と併せて 782 機関が出展、来場者は1万5千人にのぼり、イベントの規模は過去最大となりました。

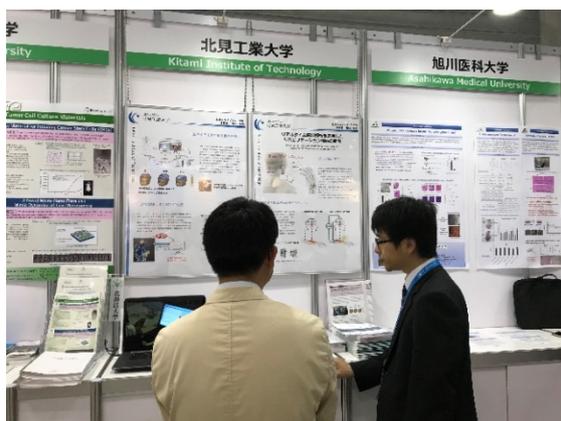
本学は昨年度に引き続き北海道庁、札幌市、ノーステック財団が共同出展する「北海道バイオクラスター」ブース内に出展しました。

今年度は、地域未来デザイン工学科 橋本

泰成准教授が取り組む「リアルタイム脳波解析を応用したリハビリテーション機器の開発」について紹介を行いました。会場では橋本准教授と社会連携推進センター 内島典子准教授が来場者への説明を行いました。実際のシステムを用いた説明は、研究機関や企業から注目を集めました。

本イベントでは、展示以外に実用化に向けた具体的な商談や技術相談を行うマッチングシステムが運用されています。本学においても、出展前から面談のご依頼をいただくなど、研究内容への関心が伺えました。

国内外から広く参加者が集まる本イベントは収穫も多く、本学の研究を広くアピールできる貴重な機会の一つです。既に次年度の開催も決定しており、今後も出展を継続していきたいと考えています。



研究紹介を行う橋本准教授



北海道バイオクラスターブースの様子

自動車技術会 2017 年秋季大会産学ポスターセッションに出展

(社会連携推進センター)

10月11日(水)～13日(金)の3日間、グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)を会場に自動車技術会2017年秋季大会が開催されました。本大会では、「産学ポスターセッション～シーズとニーズの出会い～」が開かれ、3日間を通して全国24の学術機関の研究室から自動車技術に関する研究成果の発表がありました。

本学は、技術広報の一環として本ポスターセッションに参加しており、今年度は、地域未来デザイン工学科 川村彰教授、富山和也助教が取り組む、「車両挙動解析による路面平坦性のリアルタイム計測」について紹介しました。

会場では富山助教と学生1人がブースで

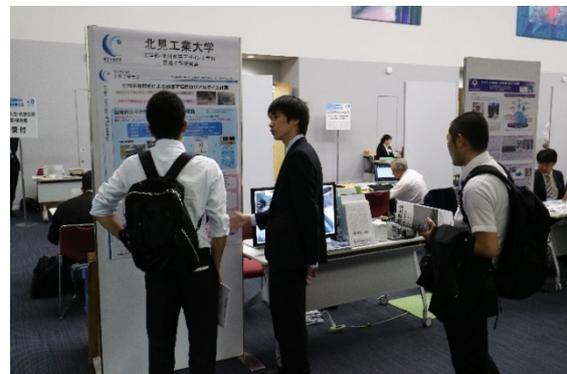
の説明や、モニターを用いた研究紹介などの展示を行いました。本学ブースには自動車関連企業を中心に、3日間で70人以上の方が訪れました。

他大学や自動車関係の業種の方との情報共有はもちろんのこと、実用化に向けた具体的な話もあがり、研究や開発に本格的な取り組みが期待できる情報交換が行われました。学生にとっても研究を通じて他大学・企業との交流を図る貴重な経験ができる機会となっています。

今後も、研究者にとって研究の発展に有意義な場としてぜひ活用していきたいと考えています。



会場の様子



説明を行う本学学生

消防訓練を実施

(施設課)

10月12日(木)、震度5強の地震に伴う火災発生を想定した訓練を実施しました。

訓練当日はマテリアル工学科の学生、教職員等、約100人が参加しました。

訓練はマテリアル工学科棟を仮想火元として、第一発見者である学生の通報から始まり、学生や教員による初期消火、自衛消防隊による避難誘導および救助活動等を実施しました。

続いて、屋内消火栓の取扱・放水訓練、

消火器の取扱訓練を実施しました。この訓練では、使用説明の後、本物の消火器の代わりに訓練用の水消火器を使い、消火訓練を行いました。消火器取扱訓練終了後は、立ち会った北見地区消防組合本部の方からご講評をいただきました。

最後に、高橋信夫学長から、「これからは暖房を使うことも増えてくるので、暖房を使う際には注意してほしい」等の挨拶があり、訓練は無事終了しました。



担架に乗せた仮想負傷者の搬送



高橋学長からの挨拶

会計基準研修を実施

(財 務 課)

10月20日(金)、国立大学法人北見工業大学会計基準研修を実施しました。

本研修は、国立大学法人会計基準・実務指針に基づく財務の構造及び本学における財務の状況についての基礎的知識を習得するとともに、決算業務に必要な知識を習得することを目的とするものです。

午前は山口文章財務課長が国立大学法人

会計基準の概要について講義を行い、午後からは、新日本有限責任監査法人の松田晃典公認会計士をお招きし、資産除去債務をはじめとする個別会計基準について講義をしていただきました。

財務課をはじめとする会計事務に携わる18人の職員が出席し、真剣な表情で講義に耳を傾けていました。



松田公認会計士による講義の様子

第2回学生選書ツアーを実施

(情報図書課)

10月26日(木)、コーチャンフォー北見店において平成29年度第2回学生選書ツアーを実施しました。

本ツアーは年2回開催しており、学生自らが選書する機会を作ることで、学生のニーズにあった資料を収集し、図書館に対する学生の関心を高めることを目的としています。今回は「友人に薦めたい本」「教養が身につく本」「何度も読み返したくなる本」のいずれかのテーマのもと、選書を行いました。

当日は、学部生8人、大学院生1人の合計9人が参加し、自分が読んでみたい本だけでなく、選書テーマに沿って真剣に選んでいました。

ツアーで選んだ本については、選書理由などを記載したカードと併せて、11月上旬から来年1月上旬まで図書館特設コーナーに展示します。

是非、図書館にお越しいただき、展示をご覧ください。



店内でテーマに合った本を探す参加者

社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催

(社会連携推進センター)

10月26日(木)、本学において北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催しました。

本会議は、オホーツク地域の経済発展及び地域活性化を目指し、周辺自治体・大学・公設試験場・包括連携協定締結機関等の関連部署担当者に「産学官連携推進員・協力員」を委嘱し、地域における産学官連携に関する協議・情報交換等を行っているものです。

今回の協議事項は「第6次産業化への取組み」及び「地域防災への対策と課題」として、本学に新たに設置した「オホーツク型先進農業工農連携研究ユニット」及び「複合型豪雨災害研究ユニット」の取組みについて説明を行いました。地域との関連が大きいこの研究ユニットに対して、各自治

体からはそれぞれが抱えている課題について是非協力して欲しいとの要望が出されました。さらに、他機関からの情報提供として、道内企業は*BCP対策の検討が遅れていることについて、また、自治体向けの各種事業等の紹介がありました。

本会議は、総勢37人の出席者となり、産学官連携推進員・協力員及び大学関係者が一堂に会して意見交換を開催したことは大変有意義な機会であったと思います。

今後もこの会議を有効に活用し、地域に貢献する大学として、地域との連携、課題解決に向けて取り組んでいきたいと考えております。

(※BCP対策とは、自然災害やテロなど、予期せぬ事態が発生したときでも、ビジネスを継続できるようにする行動計画のこと。)



鈴木聡一郎社会連携推進センター長の挨拶



全体の様子

「第2回ハッカソン in 北見」を開催

(社会連携推進機構)

10月28日(土)、昨年に引き続き「第2回ハッカソン in 北見」が、市内のテレワーク拠点サテライトオフィス北見で開催されました。

この大会は、北見市が主催となり大学生を対象に、仲間同士でスマートフォン用アプリケーションの開発技術を競い合い、ハッカのまち北見から世界を変える第一歩を踏み出そうというものです。

大会には、本学学生30人ほどが参加しました。参加者は2~4人のチームで約7時間の制限時間内にアプリのアイデアを考えプログラミングする等、最後に3分間のプレゼンテーションで競い合いました。結果、大賞には会員制交流サイト(SNS)を活用し、

ネットに書き込まれた悩みや疑問に対し、起業家や企業等が解決方法を示すアプリに贈られました。

この大会は、場所や時間にとらわれずに働く「テレワーク」を推進している北見市が、学生にアピールする狙いで企画したのもでもあります。地方創生施策として地域に若者を定着させるため、地元自治体や企業が様々な角度から学生との交流や地域での仕事場の提供等に力を注いでいます。

本学でも、学生参加型のイベントを企画する等、学生が地域で活躍できる場を求めて、他機関と連携しながら地域を盛り上げていきたいと考えております。



サテライトオフィス北見



全員集合



大賞受賞のチーム



会場の様子

FD 講演会を開催

(学 務 課)

10月31日（火）、第1総合研究棟多目的講義室において、FD講演会を開催しました。

本講演会は、北海道教育大学釧路校教職アドバイザー 津田順二氏をお招きして、「教材開発と授業づくり～『学び』の獲得をめざして～」というテーマでご講演いただき、教職員約60人が参加しました。

講演では、津田氏がこれまで教員として学生を指導してきた内容に則して「教材とは」、「よい問題の基準」等について説明がありました。

また、学習者が実験を行う際、事前に自らの知識、生活経験等を持ち寄ってクラス

内で討論を行った後、実験で結果を確認する「仮説実験授業」について、津田氏が実際に授業として行った内容を交えて解説いただきました。この授業方法は、アクティブラーニングに通じる学習方法の一つであり、「自らの問いを整理し、リサーチを行って、議論を深めること」は大学教育の場においても教育効果が見込まれるとのことでした。

講演後、学習者を授業に引きつける方法等について質疑応答が行われ、好評のうちに講演会が終了しました。



講演する津田氏



質問する参加者

メンタルヘルス研修を実施

(総務課)

11月8日(水)、メンタルヘルス研修を実施し、教職員約50人が参加しました。

本研修は、メンタルヘルスに関する理解を深めるとともに、自分のストレス耐性を高め、日ごろの注意点・対策方法を習得するなど、健全な労働環境を確保することを目的として実施しました。

講師として、白川純子特任助教にメンタルヘルスの現状やストレス・マネジメント等について研修していただき、参加した教職員は熱心に聴き入りながら、メンタルヘルスに対する認識と対処法への理解を深めていました。



講演する白川特任助教



研修の様子

メッセナゴヤ 2017 北海道ブースに出展

(社会連携推進センター)

11月8日(水)～11日(土)の4日間、ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)を会場としたメッセナゴヤ 2017 が開催されました。

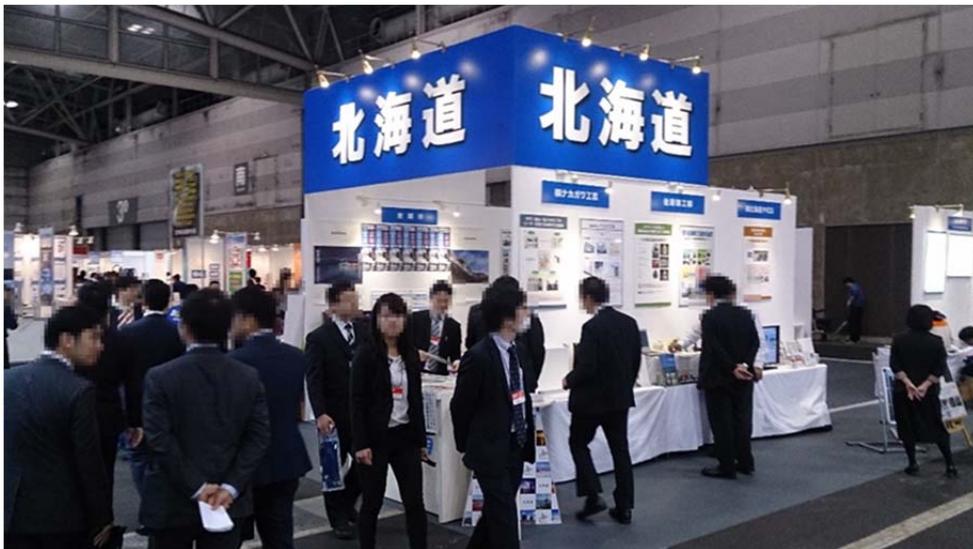
本展示会は中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のものづくり企業が出展参加する日本最大級の異業種交流展示会です。また、展示会場では各種セミナーの開催や学生の就職支援の他、昨年に引き続き東日本・熊本復興支援コーナーが設けられるなど、様々な催しが行われました。1400機関を超える企業・団体が出展し、来場者は約6万3千人にのびりました。

北海道庁では、中京圏市場に対し、北海道内企業や学術機関の高度な技術・製品等のアピールを目的として北海道ブースを設

けています。北海道の企業や学術機関が有する自動車関連技術、医療、エネルギー、環境関連技術、そして寒冷地技術を活かした新エネルギー・省エネルギー化などの取り組みに焦点をあてた展示を行い、20の企業・団体と4つの大学が出展しました。

本学は、地域未来デザイン工学科の川村彰教授と富山和也助教が取り組む「車両挙動解析による路面平坦性のリアルタイム計測」について紹介しました。自動車関連の企業が多く集まる同地域での展示会ということもあり、用意した資料がほぼ全て配布されるなど多くの関心が寄せられました。

本学は中京圏出身の学生が多く、名古屋で行われた本展示会への参加は、大学広報の面からも貴重な場となりました。



北海道ブースの様子

第31回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）に出展

（社会連携推進センター）

11月9日（木）～10日（金）の2日間、アクセスサッポロを会場に第31回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネスEXPO）が開催されました。

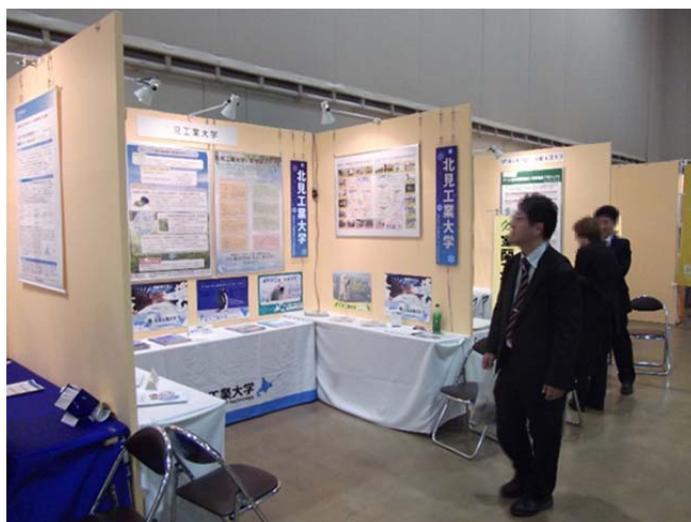
本イベントは北海道内の産学官金の関係機関が協力し開催している北海道最大級の産業関連連携マッチングイベントです。今年度は345の企業・団体が参加し、約2万人の来場者が訪れました。会場ではこの他、7つのイベントが同時開催され、各所で賑わいを見せていました。また、「学生さん向け見学ブース」の設置や、企業研究・相談会を行うなど、学生の就職活動を支援する取り組みも行われました。

本学は「学術・試験研究機関展示ゾーン」において、社会連携推進センターの有田敏彦教授が今年度設置された「複合型豪雨災

害研究ユニット」と「オホーツク型先進農業工農連携研究ユニット」の2つの研究プロジェクトについてパネル展示と紹介を行いました。来場者数は過去最大となり、本学ブースにおいても例年の1.5倍以上の来場者が訪れました。また、札幌近郊の高校生も見学に訪れ、入試案内など本学の紹介を行うことも出来ました。

本イベントには例年、出展者や来場者として本学出身の卒業生も数多く訪れます。仕事の面での興味だけでなく、懐かしさに惹かれて立ち寄るなど、母校への愛着を垣間見ることもできました。

本イベントは就職等の情報収集にも大変役立つ良い機会であり、本学を紹介することの重要性を再認識する場となりました。



本学の展示ブース

北海道の大学・研究機関による JST 新技術説明会を開催・参加

(社会連携推進センター)

11月16日(木)、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)と北海道大学産学・地域協働推進機構が主催し、本学も後援団体として協力したライフサイエンス系・新技術説明会を、JST 東京本部別館 1F ホールで開催しました。

JST 新技術説明会は、大学や公的研究機関等の研究者が研究成果について説明し、成果の実用化に向けて広く共同研究のパートナーや開発技術の実施企業を募る場です。北海道の大学・研究機関においても、研究成果の発信の場として毎年数回開催しています。

会場には大学関係者、産学官連携支援機関、産業界から約60人の来場があり、本学をはじめ、北海道大学、帯広畜産大学、北海道立総合研究機構からの研究発表が行わ

れました。

本学からは、地球環境工学科の齋藤徹教授が参加し、「洗剤で水を洗う？界面分離設計による薬物含有排水浄化」と題して研究成果を説明しました。プレゼンテーションの後には研究の成果に興味を持つ企業の方々との名刺交換、個別相談が行われ、さらに深い技術や共同研究の可能性等について話し合いが行われました。

本説明会は、発表者の研究力向上に繋がる貴重なネットワーク形成の機会であり、また、今後の研究・産学官連携の発展に向けた有意義な広報・情報交換の機会でもあります。

今後も積極的な参加・発表を継続していきたいと考えています。



JST 新技術説明会の会場



研究を紹介する齋藤教授

アグリビジネス創出フェア in Hokkaido に参加

(社会連携推進センター)

11月17日(金)～18日(土)の2日間、サッポロファクトリーを会場に「アグリビジネス創出フェア in Hokkaidoー北海道の食と農の明日へー」が開催されました。

NPO 法人グリーンテクノバンクが主催し、10月に東京ビッグサイトで開催された「アグリビジネス創出フェア」の北海道版という位置づけの本イベントには、食や農業に関する約30の企業・団体が出展しました。

今回は、今年度設置された「オホーツク型先進農業工農連携研究ユニット」について紹介を行いました。また、共同出展の北見市雇用創造協議会からは、工学連携推進型地域6次産業人材育成事業の受講生が開

発に携わった「ぶりの燻製」と「大豆ミート」の試食も行われ、多くの来場者の興味を集めました。

本学ブースではこれら商品に関するアンケートも行い、今後の商品開発において有益な情報を得ることができました。会場ではブースプレゼンテーションやスタンプラリーも開催され、多くの方々に本学ブースを訪れていただきました。

本学の卒業生も来場し、本学の最近の動向に興味を持っていただきました。「ビジネス EXPO」と同様、卒業生への近況報告や就職活動、入試案内など、様々な面で意義の深い場となりました。



本学の展示ブース



試食・アンケート調査の様子

永年勤務者表彰式を挙

(総務課)

11月22日(水)、平成29年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式を第2会議室において挙

高橋信夫学長から被表彰者に対し、表彰

状の授与並びに記念品の贈呈が行われ、永年にわたる本学への貢献に対する感謝とお祝いの言葉が贈られました。

被表彰者は、次のとおりです。

北見工業大学永年勤務者表彰被表彰者(50音順)

30年勤務者

氏名	所属学科等
松村昌典	工学部

20年勤務者

氏名	所属学科等
宇野珠実	技術部
栄浪晋也	情報図書課
川村彰	工学部
桑村進	工学部
白川和哉	技術部
原田康浩	工学部
山田洋文	工学部



永年勤務者表彰式被表彰者

研究ユニット活動状況報告会を開催

(プロジェクト研究推進センター)

11月24日(金)、本学B212講義室において研究ユニット活動状況報告会を開催しました。

本報告会は、本学の重点研究分野を推進するために平成28年度に設置した2つの研究ユニットである「複合型豪雨災害研究ユニット」、「オホーツク型先進農業工農連携研究ユニット」の活動内容を教職員に報告することで、本学の強み、特色ある取組の方向性を知っていただき、教育研究活動の活性化と教職員の意識の向上を図り、本学の教育研究をさらに推進することを目的と

して開催したものです。

報告会では、プロジェクト研究推進センター長である川村彰副学長からの挨拶の後、各ユニットから、ユニット設立の経緯や研究・実験の進捗状況、これまでの研究成果、今後の予定などについて詳細な報告がありました。

本報告会には延べ60人以上の教職員や学生が参加し、本学の特色ある研究の活動状況に熱心に耳を傾け、活発な質疑応答が行われていました。



川村プロジェクト研究推進センター長の挨拶



川口貴之准教授による
「複合型豪雨災害研究ユニット」の報告



熱心に話を聞く参加者



岩館健司助教による「オホーツク型
先進農業工農連携研究ユニット」の報告

大学見学において Pepper を活用

(情報図書課)

本学では今年度から、ソフトバンクロボティクスの人型ロボット「Pepper for Biz」を導入しており、これまでオープンキャンパスやおもしろ科学実験など、様々な大学イベントで活用してきました。

春からは、大学見学に訪れた高校生への大学紹介を、職員ではなく Pepper が行っています。どの高校の生徒も、最初はロボットでの説明が珍しいのか、多くの生徒がス

クリーンに映った資料よりも Pepper を見ていましたが、慣れてくると、次第に説明を聞くのに集中できるようになっていました。

大学紹介を聞いた高校生の感想には「Pepper が説明しているのには驚いた」、「聞きやすくとてもわかりやすかった」と大好評でした。今後も大学広報において、活躍の場を広げていく予定です。



大学紹介を行う Pepper とそれを聞く高校生

= 日誌 =

10 月

- 2日 秋季大学院入学式、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 3日 第4回公開講座（～19日）、高大連携事業「数学Ⅲ補習講座」（～12日）
- 4日 アグリビジネス創出フェア2017（～6日）
- 6日 インターンシップ事後研修会
- 7日 高大連携事業「ピアサポート」
- 9日 父母懇談会（札幌）
- 10日 研究推進機構統括会議
- 11日 自動車技術会2017秋季大会産学ポスターセッション（～13日）、BioJapan 2017（～13日）
- 12日 消防訓練
- 13日 社会連携推進センター運営会議、教務委員会、就職ガイダンス
- 14日 第5回公開講座
- 15日 第6回公開講座（～28日）
- 18日 教育研究評議会、役員会、研究推進機構統括会議、編入学試験（第2次募集）出願受付（～24日）
- 19日 発明審査委員会、学生委員会
- 20日 オホーツク地域産業セミナー
- 24日 アドミッションセンター運営会議、ブック・プロジェクトによるビブリオバトル
- 26日 社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議、3年次PROG結果の指導利用説明会（～27日）、学生選書ツアー、社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議
- 27日 就職ガイダンス
- 28日 父母懇談会（東京）
- 31日 FD講演会

11 月

- 1日 推薦入試・帰国子女入試出願受付（～8日）
- 2日 学長選考会議
- 6日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 7日 地域連携・国際交流委員会
- 8日 メッセナゴヤ2017（～11日）
- 9日 教務委員会、ビジネスEXPO（～10日）
- 10日 第7回公開講座（～14日）、就職ガイダンス、推薦入学者選抜実施委員会
- 13日 社会連携推進センター運営会議
- 14日 編入学試験（第2次募集）学力検査・面接試験
- 15日 教育研究評議会、遠軽高校異校種連携事業
- 16日 学長選考会議、経営協議会、役員会、教育研究評議会
- 17日 就職ガイダンス、アグリビジネス創出フェア in Hokkaido
- 21日 学生委員会
- 24日 研究ユニット活動状況報告会、業界研究ガイダンス
- 27日 推薦入学者選抜実施委員会
- 30日 入学試験実施委員会